体外診断用医薬品

＊2026年 4月改訂（第２版）
2023年11月作成（第１版）

承認番号　21700AMZ00666000
BMS-06K2Y

この電子化された添付文書をよく読んでから使用してください。

ロイシンアミノペプチダーゼキット

イアトロＬＱ　ＬＡＰレートⅡ

（Ｌ－ロイシル－ｐ－ニトロアニリド基質法）

●全般的な注意

１．本品は体外診断用医薬品です。それ以外の目的には使用できません。
２．診断・治療効果の判定は、本法を含めて関連する他の検査や臨床症状に基づき医師が総合的に判断してください。
３．添付文書以外の使用方法については保証をいたしません。
４．使用する機器の添付文書及び取扱説明書をよく読んでから使用してください。

●形状・構造等（キットの構成）

１．Ｒ－１
　トリス緩衝液
２．Ｒ－２
　Ｌ－ロイシル－ｐ－ニトロアニリド

●使用目的

血清又は血漿中のロイシンアミノペプチダーゼ（ＬＡＰ）活性の測定

●測定原理

検体中のロイシンアミノペプチダーゼ（ＬＡＰ）は、Ｌ－ロイシル－ｐ－ニトロアニリドを加水分解し、ｐ－ニトロアニリンを遊離します。この反応におけるｐ－ニトロアニリンの増加速度を光学的に測定し、ＬＡＰ活性を求めます。

$$\text{L－ロイシル－p－ニトロアニリド} + H_2O \xrightarrow{\text{LAP}} \text{L－ロイシン} + \text{p－ニトロアニリン}$$

●操作上の注意

１．検体
　１）検体には血清、ヘパリン加血漿又はクエン酸加血漿を使用してください。
　２）検体及び標準品等を分注するときは、泡立てないように注意してください。
　３）不溶物を含む検体は遠心分離又は濾過により除去した後使用してください。
　４）検体はなるべく新鮮なものを使用してください。やむを得ず保存をする場合は次のようにしてください。[4)]
　　・2～10℃　　1週間以内
　　・－20℃以下　長期保存
　５）検体は常温（15～25℃）に戻して使用してください。

２．妨害物質
　ビリルビンは 50 mg/dLまで、乳びは 5,000ホルマジン濁度まで、溶血はヘモグロビン濃度として 500 mg/dLまで、アスコルビン酸は 50 mg/dLまで影響ありませんでした。

３．その他
　１）検体の活性が測定範囲を超える場合は、検体を生理食塩水で希釈して再測定してください。

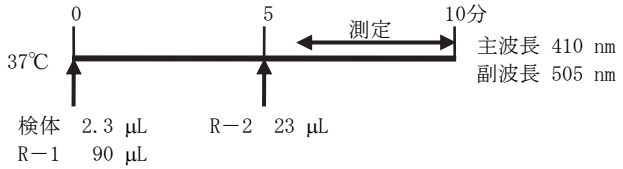
●用法・用量（操作方法）

操作法は自動分析装置により異なります。詳細な操作法は各装置毎にパラメータを用意してありますのでご用命ください。

［JCA-BM6010自動分析装置の例］

１．試薬の調製方法
　１）Ｒ－１：そのまま使用します。
　２）Ｒ－２：そのまま使用します。

２．測定操作法



2.3 μLの検体に 90 μLのＲ－１を加え、37℃で 5分間加温した後、23 μLのＲ－２を加え、37℃で 5分間加温しながら主波長 410 nm、副波長 505 nmで吸光度変化量を測定します。

●測定結果の判定法

１．参考基準範囲　血清： 30～70 U/L[3)]
　基準範囲は種々の条件下、各検査室により変動する可能性がありますので、各施設にて適した値を設定してください。

２．判定上の注意
　１）検体によっては、まれに検体中の目的成分以外との反応や妨害反応を生じる事があります。測定値や測定結果に疑問がある場合は、再検査や希釈再検査により確認してください。
　２）測定上限以上の高濃度検体については、キャリーオーバーにより次検体以降の測定値に影響を与える可能性がありますので注意してください。
　３）診断・治療効果の判定は、本法を含めて関連する他の検査や臨床症状に基づき医師が総合的に判断してください。

●性能

弊社の品質管理基準に基づいた値です。

１．感度
　生理食塩水と 3 U/Lの標準品をそれぞれ 10回同時測定するとき、MEAN±2S.D.は重なりません。

２．正確性
　既知活性の管理血清を測定するとき、既知活性±10%以内です。

３．同時再現性
　管理血清を 5回同時測定するとき、C.V.は 5%以下です。

４．測定範囲
　3～2,000 U/L（JCA-BM6010自動分析装置使用）

５．相関性
　本法とイアトロＬＱ　ＬＡＰレートとの相関は、
　　血清を試料とした場合
　　n=96、r=1.000、y＝0.99x＋0.16でした。（y：本法）
　本法と他社製品との相関は、
　　血漿を試料とした場合
　　n=218、r=1.000、y＝1.05x＋1.48でした。（y：本法）

●使用上又は取り扱い上の注意

１．取り扱い上の注意
　１）検体は、ＨＩＶ、ＨＢＶ、ＨＣＶ等の感染の恐れがあるものとして取り扱ってください。
　２）検体については、ゴミ、カビ、細菌類、洗剤等の混入は絶対に避けてください。
　３）検査にあたっては、感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、口でのピペッティングは行わないでください。

２．使用上の注意
　１）試薬は貯蔵方法に従って保存し、使用期限を過ぎた試薬は使用しないでください。
　２）凍結した試薬は使用しないでください。

３）ロットの異なる試薬は混合しないでください。又、検量線作成と検体測定は必ず同一条件で行ってください。
４）使い残りの試薬の混合は避けてください（汚染や試薬の劣化をきたすことがあります）。
５）測定終了後は、蓋をして貯蔵方法に従って保存してください。
６）ゴミなどが試薬及びセルに混入しないように留意してください。

３．廃棄上の注意
１）検体、検査に使用した器具類及び廃液は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度 1,000 ppm、1時間以上浸漬）、グルタールアルデヒド溶液（2%、1時間以上浸漬）等での消毒又はオートクレーブ処理（121℃、20分以上）を行ってください。
２）試薬、検査に使用した器具類及び廃液を廃棄する場合は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等に従って、廃棄してください。
３）容器等は他の目的に転用しないでください。

●貯蔵方法、有効期間

１．貯蔵方法　2～10℃
２．有効期間　1年
使用期限は外箱ラベル及び容器ラベルに記載してあります。

●包装

製品番号	包　装　単　位
BMS-06K2Y	Ｒ－１・・・・・・・・26.4 mL×2 Ｒ－２・・・・・・・・・8.6 mL×2

●主要文献

１）堺隆弘：ロイシンアミノペプチダーゼ(LAP). 日本臨床, 683：303-306, 1995.
２）Recommendation of the German Society for Clinical Chemistry, Z, Klin. Chem. Klin. Biochem., 10：281-291, 1972.
３）金井正光　編著：臨床検査法提要, 30 版, 東京　金原出版：674-677, 1993.
４）小酒井望総監修：検査診断ハンドブック, １版, 協和企画通信：720-721, 1985.

＊●問い合わせ先

ＰＨＣ株式会社　インフォメーション担当
TEL：03-6865-2500
E-mail: medi-ho-service@gg.phchd.com

＊製造販売元

PHC株式会社
東京都千代田区有楽町1-13-2